

令和6年8月2日

予察情報6-9

病害虫発生予察情報 第5号

富山県農林水産総合技術センター所長

8月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期		
水稲	いもち病（穂いもち）	並	並	野菜	白ねぎ	さび病	少ない	—	
	紋枯病	やや少ない	—			黒斑病・葉枯病	並	—	
	ごま葉枯病	多い	—			ネギアザミウマ	並	—	
	斑点米カメムシ類					ネギハモグリバエ	少ない	—	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	多い	—			シロイチモジヨトウ	並	—	
	アカスジカスミカメ	多い	—		果樹全般	果樹のカメムシ類	多い	—	
	トゲシラホシカメムシ	多い	—			りんご	褐斑病	やや多い	—
	クモヘリカメムシ	多い	—				輪紋病	並	並
	ツマグロヨコバイ	多い	—				炭疽病	やや少ない	並
	ヒメトビウンカ	多い	—				ハダニ類	並	—
セジロウンカ	多い	—	カイガラムシ類	多い			—		
トビイロウンカ	並	並	果樹	黒星病		並	—		
コブノメイガ	並	早い		日本なし		ハマキムシ類	多い	—	
大豆	葉焼病	多い				—	ナシヒメシンクイ	多い	—
	紫斑病	やや多い				並	ハダニ類	並	—
	ウコンノメイガ	少ない		—	カイガラムシ類	多い	—		
	フタスジヒメハムシ	多い	—	ぶどう	べと病	やや多い	—		
	アブラムシ類	並	—		黒とう病	やや多い	—		
	ハスモンヨトウ	並	—	かき（三社）	フジコナカイガラムシ	多い	—		
	大豆カメムシ類	多い	—		もも	モモハモグリガ	並	—	
	ハダニ類	並	—	ナシヒメシンクイ		多い	—		
野菜全般	アブラムシ類	やや少ない	—	花き球根	きく	きくの黒斑病・褐斑病	多い	—	
	ネキリムシ類	やや多い	—			アブラムシ類	少ない	—	
花き球根	花き全般	タバコガ類	少ない		—	ネキリムシ類	やや多い	—	
		ネキリムシ類	やや多い		—				

<p>発生量</p> <p>多い : 平年比 141%以上</p> <p>やや多い : 平年比 121%以上 140%以内</p> <p>並 : 平年比 80%以上 120%以内</p> <p>やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内</p> <p>少ない : 平年比 59%以下</p>	<p>予報時期</p> <p>早い : 平年値より 6 日以上早い</p> <p>やや早い : 平年値より 3～5 日早い</p> <p>並 : 平年値を中心として前後 2 日以内</p> <p>やや遅い : 平年値より 3～5 日遅い</p> <p>遅い : 平年値より 6 日以上遅い</p>
<p>予報の根拠中の</p> <p>(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(-) : 少くなる要因</p> <p>(早発) : 発生が早くなる要因、(並) : 平年並になる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。</p>	

I 水 稲

1 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容 発 生 量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の葉いもち発病株率は0%で、平年(0.0%)並に低かった。(－)
- ・ 8月26日にかけての気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 32～33 ページ参照



図1 穂いもちり病穂

2 紋枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の発病株率は0.7%で、平年(1.5%)より低かった。(－)
- ・ 8月26日にかけての気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 29～30ページ参照



図2 紋枯病り病株

3 ごま葉枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の発病株率は1.3%で、平年(0.3%)より高かった。(＋)
- ・ 近年は、発生が増加傾向にある。(＋)
- ・ 8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ 適切な水管理の励行等により稲体の活力維持に努める。
- ・ 防除指針 34 ページ参照



図3 ごま葉枯病り病葉

4 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は6.7頭で平年（3.1頭）より多く、確認地点率も49%で平年（44%）よりやや高かった。（+）
- ・ 8月26日かけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行う。
- ・ 斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草管理を徹底する。
- ・ コシヒカリ等の中生品種および晩生品種では、穂揃期の防除を徹底する。
- ・ 防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。
- ・ 近隣に雑草地や麦あと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなるので防除を徹底する。
- ・ 散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加の防除を実施する。
- ・ 令和6年7月23日発表の病害虫発生予察注意報第3号参照
- ・ 防除指針 42、44ページ参照



図4 アカヒゲホソミドリ
カスミカメ

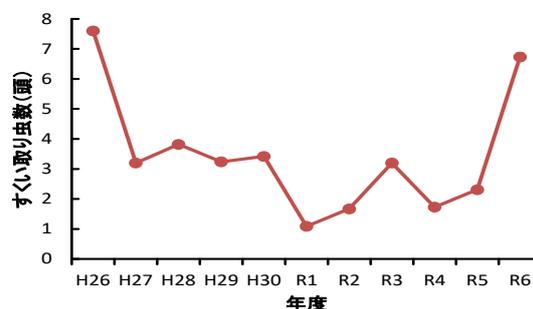


図5 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地
すくい取り状況年次推移（7月20日調査）

5 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は6.8頭で、平年（1.8頭）より多く、確認地点率は64%で平年（30%）より高かった。（+）
- ・ 8月26日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・ 防除指針 42、44ページ参照



図6 アカスジカスミカメ

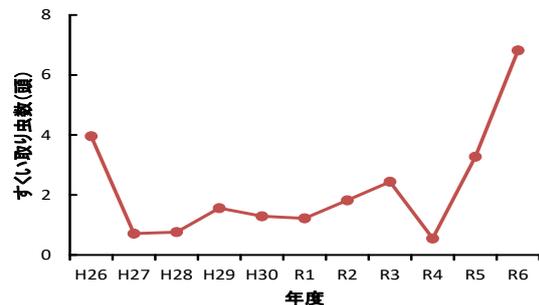


図7 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（7月20日調査）

6 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.18頭で、平年（0.13頭）よりやや多く、確認地点率は16%で平年（10%）より高かった。（+）
- ・ 8月26日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずるとともに、本種が優先するほ場においては、有機リン系剤等で防除する。
- ・ 防除指針 43、44ページ参照



図8 トゲシラホシカメムシ

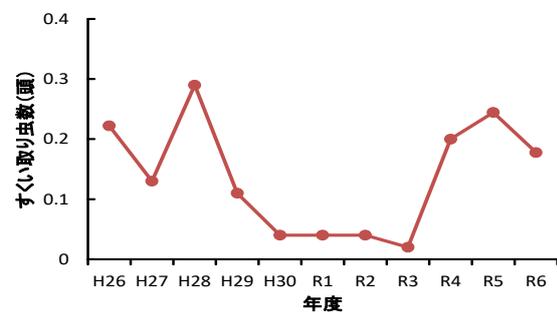


図9 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（7月20日調査）

7 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.16頭で、平年（0.03頭）より多く、確認地点率も2.2%で平年（1.8%）よりやや高かった。（+）
- ・ 8月26日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ クモヘリカメムシは成虫及び水田内で孵化した幼虫が登熟初期から後期まで稲穂を吸汁加害する。割籾がなくても被害が生じるので、発生が多い地域では品種にかかわらず穂揃期と傾穂期の2回防除を行う。
- ・ 散布後も水田内に斑点米カメムシ類がみられる場合は追加防除を実施する。
- ・ 防除薬剤はカスミカメムシ類に準じ残効性の高い薬剤が有効である。
- ・ 令和6年7月23日発表の病虫害発生予察注意報第3号参照
- ・ 防除指針 42～44ページ参照



図10 クモヘリカメムシ

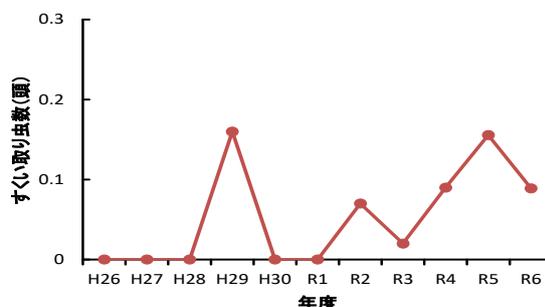


図11 クモヘリカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（7月20日調査）

8 ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査のすくい取り虫数は3.4頭で、平年（1.1頭）より多かった。（+）
- ・ 8月26日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 39ページ参照



図12 ツマグロヨコバイの雌成虫（上）と雄成虫（下）

9 ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は6.1頭で、平年（2.2頭）より多かった。（+）
- ・ 8月26日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 40～41ページ参照



図13 ヒメトビウンカ雌成虫

10 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は2.4頭で、平年(0.9頭)より多かった。(+)
 - ・ 本年度の飛来量は、全国的に多いことが報告されている。(+)
 - ・ 8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(+)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 40～41ページ参照



図 14 セジロウンカ雄成虫

11 トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 現在、発生は確認されていない(平年の初発は8月31日)。(±、並)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 40～41ページ参照



図 15 トビイロウンカ成虫

12 コブノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：**早い**
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月23日県西部のほ場において平年より早く被害が確認された。(早発)
(平年の初発は8月2日)
- (3) 防除対策
- ・ 晩植田で多発することが多いので注意する。
 - ・ 防除指針 41ページ参照

Ⅱ 大豆

1 葉焼病

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月25日調査の発病度は1.4で、平年(0.2)より高かった。(＋)
 - ・ 8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(±)
 - ・ 8月26日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 発生初期に防除する。
 - ・ 防除指針 55 ページ参照



図16 葉焼病の
典型的な症状(左)
発病程度別病徴(上)

2 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 6～7月の気温は平年に比べ高く、降水量は平年並であった。(＋)
 - ・ 8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(±)
 - ・ 8月26日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・ 2回の基本防除（8月2～3半旬と4～5半旬）を徹底する。
 - ・ 防除指針 54 ページ参照

3 ウコンノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：**少ない**
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月25日調査の被害株率は3.6%で、平年(16.3%)より低かった。(－)
 - ・ 8月26日にかけての気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
 - ・ 幼虫による葉巻の発生量を確認し、7月6半旬における1本当たりの平均葉巻数が6個以上の場合は、8月上旬まで(若・中齢幼虫期)に遅れず防除を実施する。
 - ・ 防除指針 55 ページ参照



図17 ウコンノメイガ幼虫
による葉巻き

4 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・ 7月25日調査の払い落とし虫数は0.15頭で、平年(0.02頭)より多かった。(+)
- (3) 防除対策
 - ・ 払い落とし調査を行いほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期(8月上旬～9月上旬)に防除する。
 - ・ 防除指針 57 ページ参照



図18 フタスジヒメハムシ成虫

5 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 7月25日調査の寄生株率は0%で、平年(0.5%)並に少なかった。(－)
 - ・ 8月26日にかけての気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 56 ページ参照



図19 葉に寄生するアブラムシ

6 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ フェロモントラップによる7月1半旬～4半旬の誘殺数は90頭で、平年(84頭)並であった。(±)
 - ・ 8月26日にかけての気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 57 ページ参照



図20 ハスモンヨトウ幼虫

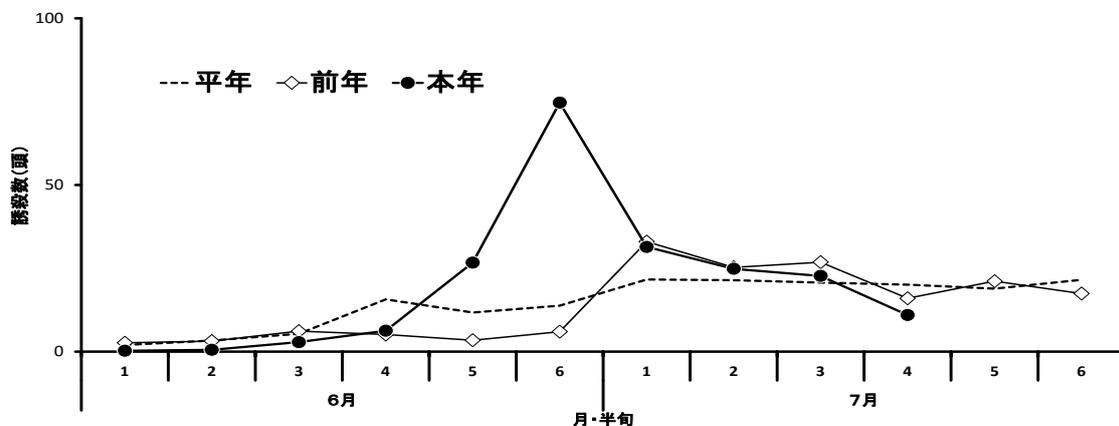


図21 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

7 ダイズ吸実性カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月25日調査の払い落とし虫数は0.50頭で、平年(0.05頭)より多かった。(+)
 - ・ 8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(+)
- (3) 防除対策
- ・ 成虫侵入期の8月中旬頃(莢伸長期)と成虫侵入盛期から2週間後の8月下旬(子実肥大期)の防除を徹底する。
 - ・ 多発が懸念されるほ場では発生状況に応じて追加防除を行う。
 - ・ 令和6年7月30日発表の病虫害発生予察注意報第4号参照
 - ・ 防除指針 56 ページ参照



図 22 ダイズ吸実性カメムシ類
(左)イチモンジカメムシ、(中)トゲシラホシカメムシ、
(右)ホソヘリカメムシ

8 ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月25日調査の寄生株率は0%で、平年(1.8%)より低かった。(－)
 - ・ 8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・ 8月26日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 高温・乾燥条件下では短期間で増殖し、被害が多発する。ほ場でハダニの被害が確認され、高温・乾燥条件が続くと予想された場合は、薬剤による防除を行う。
 - ・ 防除指針 55 ページ参照

Ⅲ 野菜

1 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月25日調査の園芸作物における1葉虫数は平年と比べ、少ない～やや少なかった。(－)
 - ・ 8月26日にかけての気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(±)
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 68～134 ページのアブラムシ類の項参照

2 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月1半旬～4半旬の誘殺数はタマナヤガが28.0頭で平年（21.4頭）よりやや多く、カブラヤガは75.8頭で、平年（63.6頭）並であった。（+）
- ・8月26日にかけての気温は高いと予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植の1週間前までに刈り取る。
- ・定期的には場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針 70～130ページのネキリムシ類の項参照

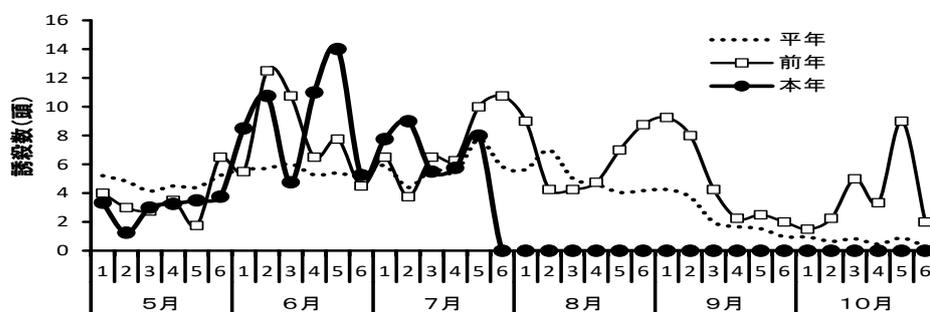


図 23 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

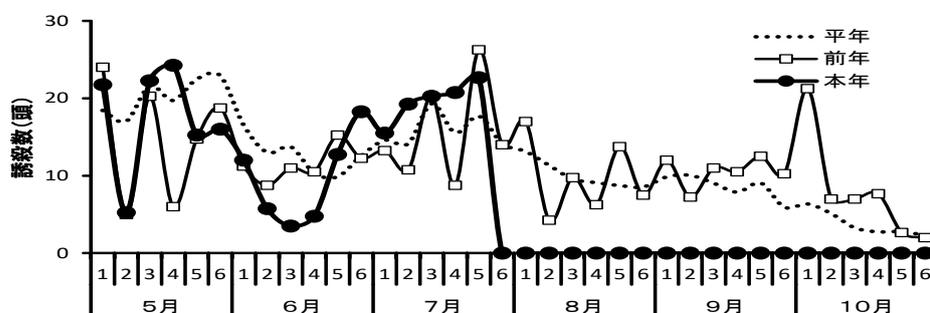


図 24 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

3 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・7月25日調査の発病株率は0%で、平年（19.2%）より少なかった。（-）
- ・8月26日にかけての気温は高いと予想されている。（-）
- ・8月26日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。（±）

(3) 防除対策

- ・定期的に予防剤を散布するとともに、発生がみられた場合は治療剤で防除する。
- ・防除指針 97ページ参照



図 25 さび病の病徴
(夏孢子)

4 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 7月25日調査の発病株率は3.2%で、平年(12.4%)より低かった。(－)
- ・ 8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(－)
- ・ 8月26日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ 無理な土寄せを避け、他の病害虫防除を徹底するなど、葉先枯れの防止に努める。
- ・ 防除指針 97～98 ページ参照



図26 黒斑病の病徴

5 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 7月25日調査の被害株率は44.8%で、平年(44.9%)並であった。(±)
- ・ 8月26日にかけての気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 土寄せ毎に粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
- ・ 防除指針 99～100 ページ参照



図27 ネギアザミウマの被害葉

6 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・ 6月25日調査の被害株率は0.8%で、平年(15.6%)より低かった。(－)
- ・ 8月26日にかけての気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 土寄せ毎に粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤を施用する。
- ・ 防除指針 99 ページ参照



図28 ネギハモグリバエの産卵痕(左)と幼虫による被害(右)

7 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月3半旬～5半旬の誘殺数は26.8頭で、平年(26.6頭)並であった。(±)

- ・8月26日にかけての気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・防除指針 100 ページ参照



図29 5 齢幼虫(左)と成虫(右)

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は294.9頭で、平年(15.6頭)より多かった。(＋)

- ・8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・令和6年5月23日発表の病害虫発生予察注意報第1号参照
- ・収穫時期が近い品目、品種については、農薬の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・防除指針：りんご136、140～141、143～145 ページ、日本なし152、155～156 ページ、かき167 ページ、もも170、172 ページ参照



図30 チャバネアオカメムシの成虫(左)と卵(右)

2 りんごの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量はほぼ平年並であった。(±)
- ・8月26日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・発生がみられる園地や台風等風雨後には、トップジンM水和剤(1,500倍、収穫前日まで)を散布する。
- ・主枝や垂主枝から発生している新梢を適宜整理するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤の到達性を高める。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期(収穫前日数)に注意する。
- ・防除指針：136～138、142～143ページ参照



図31 褐斑病の初期病斑(左)と進行した病斑(右)

3 りんごの輪紋病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・ 現在までの発生量は少なかった。(－)
- ・ 8月26日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ 高温多雨で発生が急増しやすいので、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・ 収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・ 防除指針：136、138、142～143ページ参照



図 32 輪紋病のり病果

4 りんごの炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・ 前年の発生量は少なかった。(－)
- ・ 8月26日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ り病した果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
- ・ 発生の多い園地では、オーソサイド水和剤80（800倍、収穫前日まで）を散布する。
- ・ 防除指針：136、138、142～143 ページ参照



図 33 炭疽病のり病果

5 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 現在までの発生量は少なかった。(－)
- ・ 8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ 園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。
- ・ 殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
- ・ 殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
- ・ ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
- ・ 収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・ 防除指針：139、141～142、144～145 ページ参照



図 34 ナミハダニの成虫

6 りんごのカイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量はやや多かった。(＋)
- ・8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・第2世代歩行幼虫発生盛期は8月初旬と予想されるので、発生の多い園地では遅れないように防除を行う。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：140～141、143～145 ページ参照



図35 カイガラムシ類による被害果

7 日本なしの黒星病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は少なかった。(－)
- ・8月26日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生が多い場合は、収穫前にオーソサイド水和剤80（1,000倍、収穫3日前まで）を散布する。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：148～151、154 ページ参照



図36 黒星病のり病幼果

8 日本なしのハマキムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は7.2頭で、平年（2.8頭）より多かった。(＋)
- ・8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・被害葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生の多い園地では、アグロスリン水和剤（2,000倍、収穫前日まで）を散布する。
- ・防除指針：148、151～152、155～156ページ参照

9 日本なしのナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は21.4頭で、平年(9.4頭)より多かった。(+)
- ・8月19日にかけての気温は高いと予想されている。(+)

(3) 防除対策

- ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生が多い園地では、アグロスリン水和剤(2,000倍、収穫前日まで)を散布する。
- ・防除指針：148、151～152、155～156ページ参照

10 日本なしのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は少なかった。(－)
- ・8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。
- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
- ・殺ダニ剤は散布むらにより効果、残効が低下するので、丁寧に散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期(収穫前日数)に注意する。
- ・防除指針：152～153、155～156ページ参照



図 37 ナミハダニの成虫

11 日本なしのカイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は多かった。(＋)
- ・8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・第2世代歩行幼虫発生盛期は8月初旬と予想されるので、適期防除に努める。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期(収穫前日数)に注意する。
- ・防除指針：151～152、155～156ページ参照



図 38 ナシマルカイガラムシによる被害果

12 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は平年並であった。(±)
 - ・8月26日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・り病した葉などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生がみられた際は、銅水和剤又は硫黄・銅水和剤（収穫前日数は制限なし）を散布する。ただし、高温時にICボルドー48Q及びびサンケイ園芸ボルドーを散布すると、薬害が発生するおそれがあるので注意する。
 - ・防除指針：158～162ページ参照

13 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・現在までの発生量は平年並であった。(±)
 - ・8月26日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・り病した葉や新梢などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生がみられる園地では、銅水和剤（ICボルドー66D）又は硫黄・銅水和剤（収穫前日数は制限なし）を散布する。
ただし、高温時にICボルドー66D及びサンケイ園芸ボルドーを散布すると、薬害が発生するおそれがあるので注意する。
 - ・防除指針：159～162ページ参照

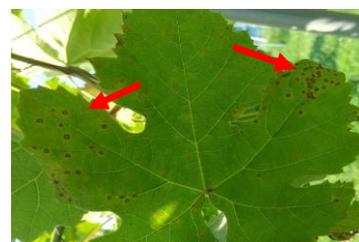


図 39 黒とう病のり病葉

14 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は140.0頭で、平年（78.4頭）より多かった。(＋)
 - ・8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
- ・発生の多い園地では、コルト顆粒水和剤（2,000～3,000倍、収穫前日まで）を散布する。
 - ・防除指針：164、166～167ページ参照



図 40 フジコナカイガラムシの雌成虫

15 もものモモハモグリガ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は6.5頭で、平年(44.3頭)より少なかった。(－)
 - ・8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・収穫終了後にサムコルフロアブル10(5,000倍)を散布する。
 - ・防除指針：169～172ページ参照

16 もものナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は35.5頭で、平年(20.3頭)より多かった。(＋)
 - ・8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・収穫終了後にサムコルフロアブル10(5,000倍)を散布する。
 - ・収穫期間中に発生(新梢の芯折れ)がみられる園地では、ディアナWDG(5,000～10,000倍、収穫前日まで)を散布する。
 - ・防除指針：169～172ページ参照



図41 ナシヒメシンクイによる被害果

V 花き・球根

1 きくの黒斑病・褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・7月25日調査の被害株率は6.7%で、平年(4.3%)より高かった。(＋)
 - ・8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・8月26日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 189ページ参照

2 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・7月25日調査のキクほ場における1葉虫数は0頭であった。(－)
 - ・8月26日にかけての降水量は平年並か多いと予想されている。(－)
- (3) 防除対策
 - ・防除指針 188～212ページのアブラムシ類の項参照

3 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の誘殺数はタバコガが4.3頭で平年(17.9頭)より少なく、オオタバコガも7.7頭で平年(21.3頭)より少なかった。(－)
- ・8月26日にかけての気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・防除指針 194～212ページのタバコガ、オオタバコガの項参照

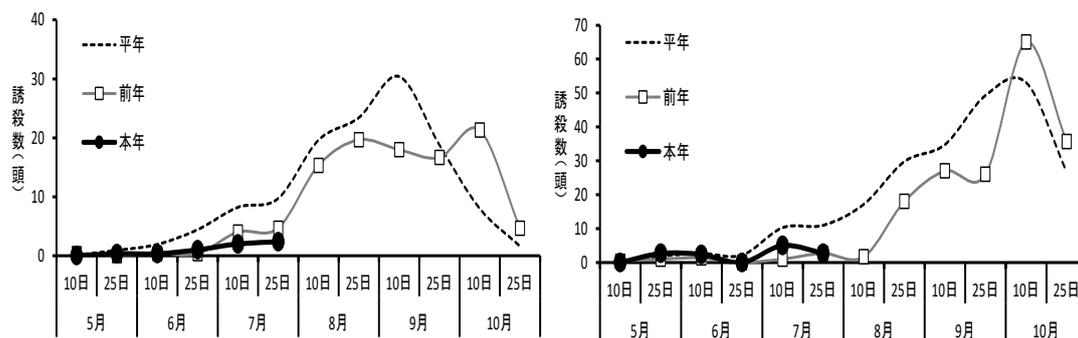


図42 フェロモントラップによるタバコガとオオタバコガの誘殺数の推移
(左図：タバコガ 右図：オオタバコガ)

4 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月1半旬～4半旬の誘殺数はタマナヤガが28.0頭で平年(21.4頭)よりやや多く、カブラヤガは75.8頭で、平年(63.6頭)並であった。(－)
- ・8月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植の1週間前までに刈り取る。
- ・定期的には場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針 194、208ページのネキリムシ類の項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

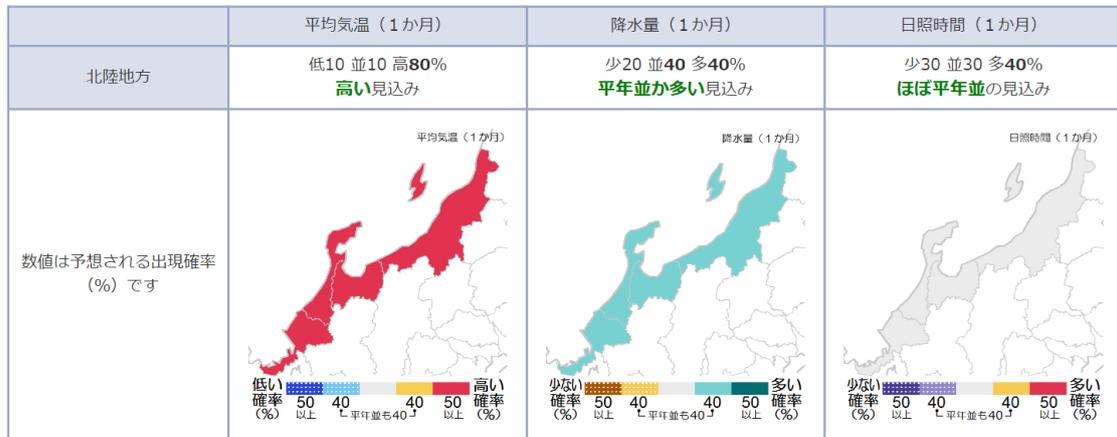
農薬は適用作物以外に使用できません。また、周辺作物への農薬飛散を防止する取り組みが必要です。風向き等にご注意など飛散防止への注意を払いましょう。さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 1か月予報
(予報期間 7月27日～8月26日)

7月25日
新潟地方气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

- ・ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
- ・ 期間のはじめは前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。



図は気象庁ウェブサイト (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) より引用

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
TEL 076-429-2111 FAX 076-429-7974
情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

